

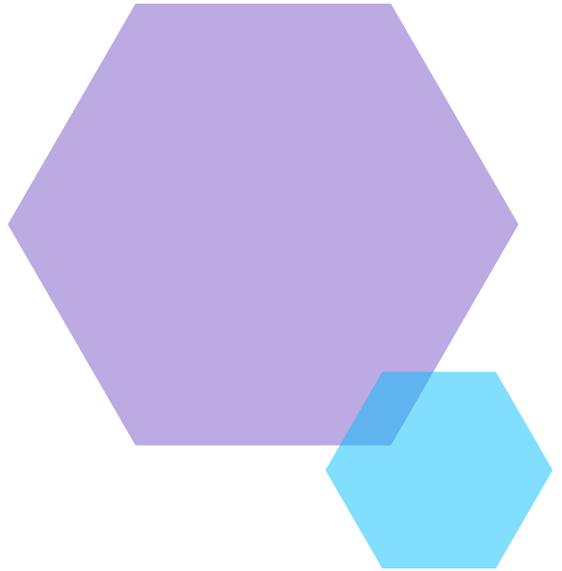
ご参考資料

海外主要メディア まとめ

アジア編



Global PR Wire



CONTENTS

01	はじめに	P.2
02	アジアの主要メディア・サイト	P.3
	01. ニュース編	P.3
	02. ゲーム編	P.8
	03. インフルエンサー編	P.11
03	Global PR Wireのご紹介	P.15

アジアのニュースリリース トレンドとは？



アジアのニュースリリースの歴史

アジアのニュースリリースの歴史は、多様な文化と急速な経済発展を背景に、独自の進化を遂げてきました。

中国においては、改革開放政策が進む中で、企業や政府機関は国内外に向けて積極的に情報を発信するようになりました。特にインターネットの普及が加速した2000年代以降、デジタルプラットフォームを通じたニュースリリースが一般的になり、企業の広報戦略において重要な役割を果たしています。

一方、東南アジアでは、多様な言語と文化を背景に、各国で異なる形でニュースリリースが発展してきました。特に経済成長が著しいシンガポールやマレーシアでは、デジタル化が進む中で、ソーシャルメディアを活用したニュースリリースも一般的になり、企業と消費者の双方向コミュニケーションが活発化しています。

アジアのニュースリリースのトレンドの変化

1990年代後半から2000年代にかけて、アジアではインターネットの普及が進み、ニュースリリースの形式と配信方法が劇的に変化しました。特に東南アジアや中国では、デジタル化の進展に伴い、紙媒体からデジタル媒体への移行が急速に進み、オンラインニュースワイヤーサービスが登場しました。

これにより、情報は瞬時に広範囲に配信されるようになり、特に中国ではインターネットの普及率が急上昇したことから、リアルタイムでの情報発信が可能となりました。東南アジアでも、スマートフォンの普及と共に、モバイルを通じた情報配信が一般化しました。

また、ソーシャルメディアの台頭も相まって、ニュースリリースはよりインタラクティブで共有しやすい形式へと変化しています。東南アジアではFacebookやInstagram、中国ではWeChatやWeiboといったプラットフォームを通じて、ニュースリリースが広く拡散されることから、その重要性はますます増しており、企業や団体はターゲットオーディエンスと直接的にコミュニケーションを取ることが可能となることから、より戦略的な情報発信が求められています。

アジアにおけるニュースリリースの今後

アジアにおいても、ニュースリリースはビジネス戦略の一環として重要視されています。特に経済成長が著しい国々では、ニュースリリースが企業のブランド構築や市場拡大において欠かせないツールとなっています。より迅速で広範囲に情報を届ける手段として、デジタルニュースリリースの重要性はますます高まると考えられます。

世界ではいろいろな出来事が起きているため、ニュースを見て確認したい人もいるでしょう。今ではいろいろな情報を、たくさん媒体を通して知ることができます。世界の出来事を知ることで自分の今後の計画に役立てることも可能です。

ただ、どのような主要メディアを通して情報収集すべきなのか知りたい人もいるでしょう。ここではアジア地域からのアクセス数の多いニュース系メディアについてご紹介していきましょう。

■シンガポール

01. The Huffington Post

The Huffington Postはニュースとその裏話をはじめとして、思いつく限りのあらゆるカテゴリーにおける事件やイベントを網羅しているニュース系サイト。ワールド・ニュースやエンターテインメント、政治、ビジネス、ライフスタイルなど幅広い情報を提供しています。2005年にアリアナ・ハフントンとケネス・レーラー、そしてヨナ・ペレッティによって創設された同サイトは2011年2月にはAOLが3億ドル超で買収。何千人ものブロガーが報道価値の高いコンテンツを提供していることでも知られています。



画像引用元：[The Huffington Post](https://www.huffpost.com)



■インドネシア

01.コンパス

「コンパス」は、1965年に創刊された新聞であり、インドネシアの国民大多数が購読しているほど認知度の高いメディアです。国内の情報をこの新聞で確認することができるため、インドネシアの方はこの新聞からいろいろな出来事を見て確認しています。使用されている言語は公用語であるインドネシア語です。



画像引用元：[KOMPAS.com](https://www.kompas.com)

02.ザ・ジャカルタ・ポスト

「ザ・ジャカルタ・ポスト」は英字新聞となっているため外国人向けとして発行されています。記事内容は全て英語となっているため、英語ができない人はほとんど読むことができませんが、ビジネスからアジア周辺の情報まで幅広く記載されています。



画像引用元：[The Jakarta Post](https://www.thejakartapost.com)



■マレーシア

01.ザ・スター

「ザ・スター」は、公用語のマレー語で記載されていますが、準公用語である英語でも発刊されているため人気が高いです。内容はマレーシア国内の情報を見ることができるようになっており、このメディアを通して状況などを確認できます。英語表記の人気があることから今後需要が伸びていく可能性も高いです。



画像引用元：[The Star](https://www.thestar.com/)

02. Media Prima Bhd

2003年に設立され、テレビ放送や印刷、ラジオ局、屋外広告、コンテンツ制作、デジタルメディアなどのメディア関連事業を手掛けるマレーシアの大手総合メディア企業。

テレビ放送ではTV3、8TV、ntv7、TV9の4つのチャンネルを持ち、ホームショッピング・ネットワークの「ワオショップ」、ビデオ・ストーリーミング・ポータル「トントン」も展開する。

また、デジタル部門のREVメディア・グループはマレーシアの大手デジタル出版社で40以上のブランド取り扱っており、インターネット人口の約75%に相当する1,500万人以上に毎月配信できる環境を持つ。



画像引用元：[Media Prima Bhd](https://www.media-prima.com/)



タイ

01. ThaiRath

タイの日報新聞です。タイで最も売れている新聞と言われており、毎日100万部を超える発行部数を誇っています。ニュース全般を扱う第一部とスポーツやエンタメを扱う第二部に分かれており、読者にとって興味や関心のある内容を扱っています。

記事はタイ語で全て書かれています。



画像引用元：[ThaiRath](https://www.thairath.co.th)

02. バンコックポスト

タイでよく読まれる新聞です。1946年8月に最初の新聞が発行されてから今まで発刊が続いているため、多くの人から支持されているメディアです。英字新聞紙となっているためタイ人だけでなく、他の外国人にも愛されており、オンラインで閲覧できるようにもしているようです。



画像引用元：[Bangkok Post](https://www.bangkokpost.com)



■ベトナム

01. VnExpress

VnExpressはベトナムで最も人気のあるオンラインニュースポータルであり、その信頼性の高さから多くの読者に支持されています。国内ニュースだけでなく、国際ニュース、ビジネス、ライフスタイル、スポーツなど、幅広いカテゴリーにわたる情報を提供しています。特に、英語版も提供されているため、ベトナム国内外の幅広い読者層に対応しています。VnExpressは、迅速かつ正確な報道を行うことで知られており、ベトナムにおける情報源として欠かせない存在となっています。



画像引用元：[VnExpress](https://vnexpress.net)

02. Tuoi Tre

「Tuoi Tre」は、ベトナムの主要日刊新聞の1つで、ホーチミンに拠点を置いています。記事はすべてベトナム語で執筆されていますが、Tuoi Treは英語のオンラインサイト「Tuoi Tre news」も提供しています。オンラインサイトでは、ベトナムの国内ニュースの他、世界の最新ニュースや経済、ビジネス関連の充実した情報を得ることができます。



画像引用元：[Tuoi Tre](https://tuoitre.vn)



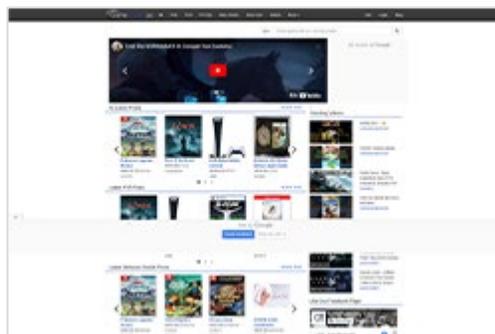
アジアのゲームメディアは、モバイルゲーム市場の拡大に伴い市場が急成長しており、昨今のスマートフォンの普及や余暇活動の充実が地域のゲーム市場をお押し上げています。

下記では特にゲームが盛んな国々においているゲーム系メディアについて紹介します。

01. GameTrader

(シンガポール発：英語)

「GameTrader」は、シンガポール国内でゲームの販売を行う小売店ですが、最新ゲームの動画紹介や、世界のゲーム情報がサイト内に非常に多く掲載されており、ゲーム系メディアとしての役割も果たしています。また、人気ゲームの攻略情報や小ネタなども豊富に掲載されており、シンガポールのゲーム好きの間でひそかに人気のゲーム系サイトです。

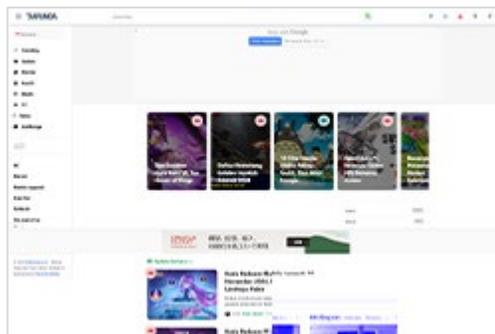


画像引用元：[GameTrader](#)

02. Dafunda

(インドネシア発：インドネシア語)

「Dafunda」もインドネシア発のインドネシア語で運営されているエンタメ関連情報メディアです。ゲームに関するページでは、攻略情報よりも「〇〇なゲームベスト10」などのコラム記事が多く掲載されており、読者に新しいゲームとの出会いを提供しています。



画像引用元：[Dafunda](#)

03. Gamebrott

(インドネシア発：インドネシア語、中国語、タイ語、ベトナム語)

「Gamebrott」はインドネシア発のゲーム系メディアで、インドネシア語、中国語、タイ語、ベトナム語にて運営されていることから、アジア圏で非常に人気の高いゲーム系メディアです。注目すべきはその情報量。ゲーム最新情報や攻略情報、ゲームレビューはもちろんのこと、人気eスポーツタイトルのそれぞれの大会情報や各ゲームのコミュニティ情報など、非常に多くの情報をサイト内で得ることができます。

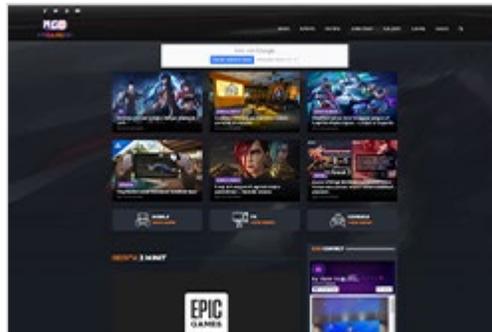


画像引用元：[Gamebrott](#)

04. MyGameOn

(マレーシア発：マレー語)

「MyGameOn」は、マレーシア発のマレー語で運営されているゲーム系メディアです。こちらも上述した「Online-Station」と同様に、主要デバイスのゲーム情報が網羅されていますが、注目すべきはeスポーツ関連情報の充実度です。世界各地で開催されているeスポーツ大会の告知や、その結果報告が非常に多く掲載されています。2018年のeスポーツ賞金獲得国別ランキングでは、マレーシアは東南アジアでトップとなる第17位にランクインしており、今後のeスポーツの活性化にも注目が高まります。

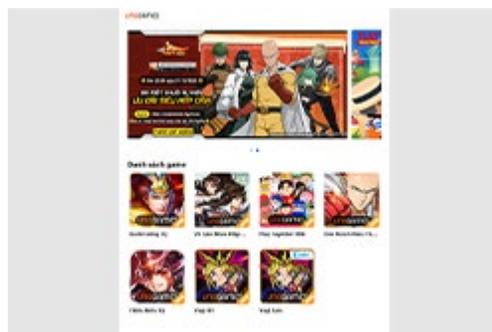


画像引用元：[MyGameOn](#)

05. 360Game

(ベトナム発：ベトナム語)

「360Game」はベトナム発のベトナム語で運営されているゲーム系メディアで、ベトナム最大規模のゲーム系メディアといわれています。ベトナムは日本のアニメ好きが多い国といわれており、日本の人気アニメキャラクターがサイトを飾っています。サイト内ではゲームレビューが非常に多く掲載されており、ベトナム人に新作ゲームを紹介することが主な目的の1つようです。

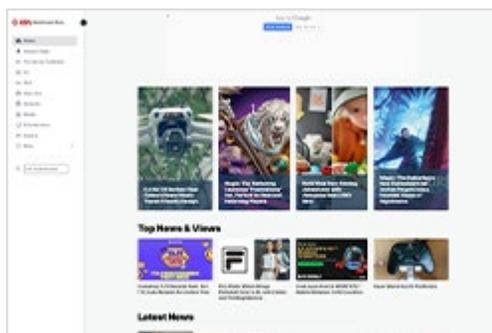


画像引用元：[360Game](#)

06. IGN Southeast Asia

(アメリカ発：英語：東南アジア向けページ)

「IGN Southeast Asia」は、世界の主要ゲーム系メディアの1つ「IGN」が運営する東南アジア向けのページです。東南アジア向けのページにおいては、東南アジアで特に人気の高いゲームがリリースされた際や、eスポーツイベントが開催された際には、トップニュースに大きくピックアップされるようになっています。ローカライズの視点からは上記で紹介した各国のゲーム系メディアには及びませんが、世界の主要なゲーム系情報を得るためには非常に優れたサイトといえるでしょう。

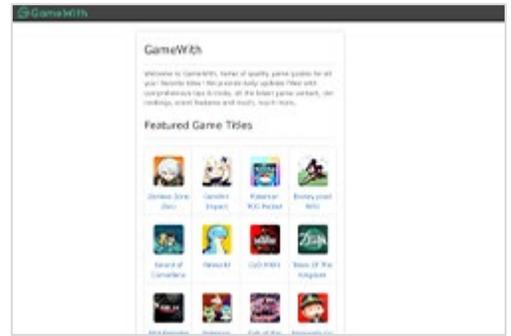


画像引用元：[IGN Southeast Asia](#)

07. GameWith

(日本発：日本語、中国語、英語)

日本を代表するゲーム系メディアの1つ「GameWith」が2018年に創設した英語版のゲーム系メディアです。2019年10月現在、世界で注目を集めている24タイトルに関する最新情報および攻略情報が掲載されており、トラフィックの多くは、アメリカやイギリス、カナダなどの英語ネイティブですが、アジア圏においても徐々に人気が高まってきています。



画像引用元：[GameWith](https://www.gamewith.com/)

日本と同様に、海外でもインフルエンサーマーケティングの注目度は増加しています。特にインターネットの普及が急激に進む東南アジアでは顕著と言えます。

そこでこちらでは、シンガポール、タイ、インドネシア、マレーシア、ベトナムで人気のインフルエンサーマーケティングプラットフォームと著名なインフルエンサーをご紹介します。

■シンガポール

01. narrators

narratorsは、シンガポールに本社を置くインフルエンサーマーケティングプラットフォームです。シンガポールやタイ、マレーシア、台湾、オーストラリアなど、アジア広域に対応したサービスを展開し、7カ国語に対応しています。50万を超えるインフルエンサーが登録する、アジアの中でも規模の大きなインフルエンサーマーケティングプラットフォームです。

AIを活用したマッチング機能により、適切なインフルエンサーの選定が可能なのが魅力の1つ。支払いシステムには自動計算機能が利用されており、想定以上の料金支払いが発生しないため、安心して利用できるのもうれしいところ。シンガポールやアジアにてインフルエンサーを活用したマーケティングを行う際には候補に入れるとよいでしょう。



画像引用元：[narrators](#)

02.ハンリ・ホーファー Hanli Hoefler

ハンリ・ホーファーMTVと言われるアジアの番組で司会を務めています。シンガポールを拠点にして活動しているモデルであり、いろいろなファッション雑誌などでも表紙に載せられているため有名です。ヨガが好きと知られており、セルフケアのためのヨガについて内容を紹介していることもあるようです。

また、モデルということで食事制限をしているわけではなく、お腹が空けば食事をするようですが、栄養価も高いものを食べることを意識するなど、そのような独自のライフスタイルが多くのフォロワーから評価を受けているようです。シンガポールでインフルエンサーとしての活動も認知されているため、覚えておきましょう。



画像引用元：Instagram/[@hanlihoefler](#)

■インドネシア

01. Allstars

Allstarsは、インドネシアに本社を置くインフルエンサーマーケティングプラットフォームです。食べ物や旅行、ファッション、美容など、各分野に特化したインフルエンサーが多く登録しているのが特徴です。得意としているSNSも明確に記載されているため、企業が行いたいキャンペーンで活躍が期待できるインフルエンサーを探し出せるでしょう。

過去には日本の「TOYOTA」や韓国の「SAMSUNG」など、世界の大手企業とも仕事を行ってきた実績があり、海外商品のPRにも強いインフルエンサーマーケティングプラットフォームです。インドネシアで日本製品をPRしたい場合にはおすすめのプラットフォームと言えます。



画像引用元：[Allstars](#)

02. マリア・ラハジェン Maria Rahajeng

マリア・ラハジェンはインドネシアジャワ島生まれのモデルです。2014年に「ミス・インドネシア」で優勝したことをきっかけに、メディアで活躍をするきっかけになりました。双子の姉がおり、アメリカのテレビでインドネシア初のアンバサダーを務めたため、全米でも知れ渡りようになりました。

内容はモデルのため主にファッションが多いですが、旅行やライフスタイルという部分もインフルエンサーとして発進しています。ジャワ島という観光地の出身なので、ホテルや観光スポットなども紹介してフォロワーの方から高い評価を受けているようです。



画像引用元：Instagram/[@mariarahajeng](#)

03. ウチタ・ポーハン Ucita Pohan

ウチタ・ポーハンはインドネシアで活動するインフルエンサーです。この方はSNSによるコメントで「自分が傷付くことや自信を無くすことはない」というポジティブな内容が特徴的です。SNSでは否定的なコメントや容姿に関するバッシングがありますが、それらを「ビューティーいじめ」と呼び、ポジティブな思考でコメントしています。インフルエンサーとして他にもポジティブなコンテンツを配信しているため、内容を確認してみることもおもしろいです。インフルエンサーだけでなく、ラジオアナウンサーとしても活動しています。



画像引用元：Instagram/[@uchiet](#)

■マレーシア

01. BigCast

BigCastは、マレーシアに本社を置くインフルエンサーマーケティングプラットフォームです。システムに組み込まれたマッチアップ機能により、キャンペーンに最適なインフルエンサーを発見できることが特徴です。また、マッチングからキャンペーン立案、支払いや分析まで、すべての機能が内包されているため、初めての人であっても比較的簡単にインフルエンサーマーケティングが実施できます。

マレーシア国民の71%がSNSを活用していることから、BigCastはマレーシアにおいて、インフルエンサーマーケティングが今後の主要マーケティングになることを強く訴えており、インフルエンサーマーケティングの魅力発信にも力を入れている会社です。マレーシア国民のことをよく理解しているプラットフォームですので、マレーシアでマーケティングを行う際には検討してみるとよいでしょう。



画像引用元：[BigCast](#)

02. SushiVid

SushiVidは、マレーシアに本社を置くインフルエンサーマーケティングプラットフォームで、マレーシアやインドネシア、シンガポール、フィリピン、中国などのインフルエンサー12,000人が登録しています。SNSを活用したライブストリーミング配信に力を入れており、顧客との積極的なやりとりの元で商品を紹介したい企業にはおすすめのインフルエンサーマーケティングプラットフォームと言えます。

ホームページ上には過去の事例が多く紹介されており、どのようなキャンペーンによりどのような成果を挙げることができたのかがわかりやすく表記されています。成功に導いた実績と経験も多いため、マレーシアにて新規にPRを開始する企業は相談してみるとよいでしょう。



画像引用元：[Sushivid](#)

■ベトナム

01. Hiip

Hiipは、ベトナムを中心にサービスを展開するインフルエンサーマーケティングプラットフォームです。ベトナムやタイ、シンガポール、インドネシア出身のインフルエンサーが10,000人以上登録しています。ファッションやライフスタイル、美容、旅行、ファミリーなど、得意ジャンル別にインフルエンサーが分類されていますので、自社企業にぴったり合ったインフルエンサーを簡単に探し出すことができます。AIを利用した独自のシステムにより、最新の機能を即座に、かつ安く提供することに成功したプラットフォームです。充実した数々の機能が利用できるにもかかわらず、シンプルな操作方法を取り入れているため、利用者から高い評価を獲得しています。ベトナムでインフルエンサーマーケティングを行う際には候補に入れるとよいでしょう。



画像引用元：[Hiip](#)

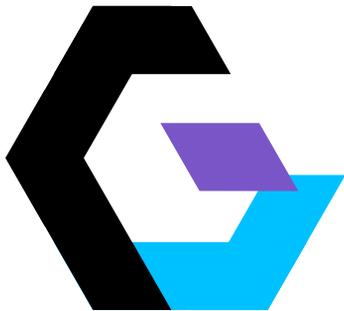
02. チー・プー Chi Pu

チー・プーは、ベトナムでインフルエンサーとして活動しています。10代の頃にアイドルとして活動しており、人気番組へも出演するなど女優としてベトナムで知られています。2015年にはファッションや映画などのエンターテインメントで、最も輝いた新人アーティストに選ばれており、多くの人から認知されているようです。

コロナウイルスが流行した際には日本円で1,000万円相当の20億ドンを寄付し、大量のマスクなども病院に寄付するなど、社会活動へも貢献しています。女優でありながら歌手としても活動するなど、マルチな活躍を見せています。



画像引用元：[Instagram/@chipupu](#)



お客様のプレスリリースを、
世界中のジャーナリストに
お届けする**配信プラットフォーム**。

Global PR Wire

海外向けのマーケティング・PR活動が
手軽にすばやく開始することが可能です。

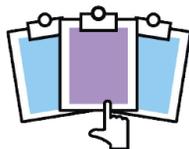
海外向けニュースリリースを、
もっと身近に。

1



シンプルな
料金体系

2



選べる
パッケージプラン

NEW 転載付きプラン登場

3



自由度の
高い**配信形式**

シンプルプラン

基本料金 **59,800円**

配信先 **1リスト**
(約500件)

記事レポート **なし**
(オプション)

転載保証 **なし**

スタンダードプラン

基本料金 **149,800円**

配信先 **2リスト**
(約1,000件)

記事レポート **セットに付帯**

転載保証 **約100媒体保証**

まずはプレスリリース配信を！
という方におすすめ



シンプルプラン

59,800円

(税別価格)

プラン内容

- 最安プランでプレスリリース配信
- 配信先500件のパッケージ選定
(US、UK、Asiaの各カテゴリーから1リスト選択)
- [Press Release Japan](#)に掲載

シンプルに**1**リストに配信のみを行いたい方に
国内最安値でご提供いたします。

6万円もお得な
転載保証付きパッケージ



スタンダードプラン

149,800円

(税別価格)

プラン内容

- 配信先500件のパッケージ選定
(US、UK、Asiaの各カテゴリーから1リスト選択)
- プレスリリース配信
- [Press Release Japan](#)に掲載
- 転載保証あり約100媒体以上
(タイトル最大100文字、画像5点まで)
- 海外クリッピングレポート
(7~10営業日後にご提出)

プレスリリースが**100媒体以上必ず転載される**
レポート付きのプランです。

他社のサービス

これまでの配信サービスの常識

✕ 文量の制限

原稿が英単語400単語を超える場合には、追加料金が発生

✕ 画像の制限

基本料金ではテキストのみ配信可能。
画像添付は都度、追加料金が発生



Global PR Wireの新常識

**文量・画像数ともに
制限なくご利用可能**

- ※プレスリリースとして適切な分量・画像数を推奨
- ・目安はタイトル100単語まで
 - ・本文は4,000単語位まで写真添付5枚まで

Global PR Wireであれば、自由度高く、リッチな表現で、
メディアに訴求することが可能

サービスの流れ

おおまかな進行スケジュールは以下のようになっております。

ご相談

ご相談・要件確定

- ・サービス紹介資料
- ・ヒアリング

原稿作成

配信までには、最低48時間（土日祝祭日除く）のお時間が必要です（お急ぎの場合、緊急対応費を別途お見積致します）

英語ローカライズ

日本語原稿校了から
+2~3営業日

英文原稿入稿

1営業日

編集チェック

原稿校了

現地語ローカライズ

英語語原稿校了から
+2~3営業日

配信準備

配信準備テスト確認

1営業日

配信

レポート

配信後7~10営業日

- ※配信をご利用の際には、会員登録が必要です。
原稿入稿に登録は必要ありません。
※英語、現地語へのローカライズにはそれぞれ
2~3営業日ほどのお時間が必要です。